

金子彰先生を送る

金子彰先生が本学に着任されたのは、一九九二年四月、今から二十五年前であり、水谷静夫先生が退職なさってから一年経った時でした。ちょうど四半世紀が過ぎたことになります。金子先生は、中世を中心とした文献研究が専門で、日本語の歴史（主に中世語）研究を実証的に行っていらっしゃいます。複製本などを積極的に使用して、言語変化の実態とその要因とを分析・考察し、総索引など基礎資料も多く作成してられました。

金子先生がいらっしゃるまで、東京女子大学の日本語史のゼミは大変少人数でしたが、金子先生がいらっしゃら、日本語史、日本語学の魅力に目覚める学生が急速に増え、金子ゼミは、日本語史のゼミとは思えない活況ぶりでした。金子先生の授業は面白い、日本語史の授業なのにユーミンが出てくる等の話を聞きました。現代語と結び付け、学生の興味を引く授業を繰り広げていらっしゃった様子でした。話しぶりも面白いので、学生に大変人気がありました。毎年のゼミ合宿も魅力的で、関西や佐渡に連れて行っていただいた学生が多数おり、キャンパスの外での学び、実際に歩き、実際に見るという学びも充実していたようです。

金子先生は、本当に学生を一人一人大事になさる先生だと思います。本学の「一人一人を大切にする」というスローガンを体現していらっしゃる先生です。金子先生の研究室では、複数の学部生・院生が作業をし、議論をする姿がいつも見られました。学部生にも本格的な研究指導をなさっており、大学院修士課程に進む学生も多くいます。二十五年の間に本学の修士課程に進学した者が十六名、他学の修士課程に進学した者が十一名います。（他学の博士後期課程に進学したものは三名。）さらには、二〇〇五年の本学博士後期課程の設立にも尽力され、これまでに金子ゼミの学生が二名ほど本学で博士号を取得しました。現在も一人、博士後期課程に所属しています。東京女子大学日本語史研究会を金子先生自ら主宰なさり、研究者の育成に貢献なさいました。学部生・院生とも、外部に研究成果を発表する機会を多く与えていらっしゃいました。博士号を取得した教え子たちは、本学

の非常勤講師として活躍し、さらに後輩の育成に尽力してくれています。この二十五年の間に先生の教えを受けることができた学生は大変幸せだったと思います。学部生も楽しく研究をし、院生はより本格的に研究し、多くの後輩が育ったことを、私も、大変嬉しく誇らしく思っています。

私自身、様々なことを教えていただきました。日本語史の研究の諸相、学生との接し方、若い頃には科研費の書類の書き方まで教えていただいたのを思い出します。金子先生の人脈のおかげで、著名な先生方に本学の非常勤講師をお務めいただくこともできました。先生ご退職の後のことが大変心配ですが、なんとか諸々引き継いで、先生の築かれたものを大切にしていきたいと思っています。

同じ日本語学の分野の教員として、また、本学の卒業生として、これまでお世話になりましたこと、心より感謝申し上げます。

来年度も、非常勤講師として、学生の指導をしていただくことになっています。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。そして、今後ますますお元気で、さらに研究をお進めになりますよう、お祈り致します。

二〇一七年三月

日本語学のもう一人の教員として 丸山直子